

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

国立大学法人岩手大学は、真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを目指すとともに、社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会と国際社会の文化の向上と発展に貢献することを目的とする。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【教育学部学校教育教員養成課程】

教育学部は、幅広い視野と教養、専門的知識・技能、及び実践的な指導力を兼ね備えた学校教員を養成するとともに、教育分野に関わる理論的・実践的な教育研究を行うことで、学校教育の発展に貢献する。また、岩手県における教員養成の中核的拠点として、地域の教育現場を支える教員の養成・輩出を使命とする。

【理工学部理工学科】

急速に進化する人工知能（AI）が世の中を大きく変えようとしている今、データサイエンスを応用する力は、すべての科学技術者に必要な能力になりつつある。一方で、地球環境やエネルギー問題を解決し、持続可能な社会をつくることは科学技術に求められた喫緊の課題である。本学部は、SDGsが謳われる前から「ソフトパス理工学」を標語に持続可能な社会の構築を目指してきたが、改組によってソフトパス理工学教育をさらに強化するとともに、専門性＋データサイエンス応用力を身に付けることができる教育を行うことにより、専門性をさらに広範に展開できる人材の育成を行う。

この目的を達成するために、本学科に、以下に示す特徴を持つ8つのコースと3つの副プログラム・特別プログラムを設定する。

◇化学コース【学士(理工学)】 革新的な電池やグリーン水素による脱炭素社会の実現、産業を支える新素材や疾病を治療する医薬品の開発、生物多様性保全に向けた取り組みなどの、持続可能な社会の実現に向け活躍できる人材を養成する。

◇数理・物理コース【学士(理工学)】 自然界の法則を探究する現代物理学と科学の基盤である数学を学び、関連する理工学分野の発展に貢献する人材を養成する。

◇材料科学コース【学士(理工学)】 金属生産プロセス、リサイクル技術、新機能材料、材料評価技術の開発に貢献できる技術者・研究者の育成を目指し、材料科学分野の専門的知識と産業応用に繋がる工学的技術を学ぶ。

◇知能情報コース【学士(情報学)】 コンピュータとネットワーク、および、工業製品や社会の知能化に貢献するAIと情報システムの専門知識・技術を学ぶ。

◇クリエイティブ情報コース【学士(情報学)】 コンピュータとネットワークの基礎、ビッグデータの整理・統合、人とコンピュータをつなぐインタフェースデザインなどを融合させた専門知識と、専門知識を活用した新たな情報創造技術を学ぶ。

◇電気電子・情報通信コース【学士(工学)】 電気電子・情報通信に関する基礎的な知識や応用力を備え、持続可能な社会に貢献できる専門技術者を目指し、情報通信・電子システム、電子デバイス、電気エネルギーの各分野について学ぶ。

◇機械知能航空コース【学士(工学)】 自動車、ロボット、航空機開発など、さまざまな機械分野で活躍できるエンジニアをめざし、設計・製図や力学などの機械工学の基礎知識とプログラミングやデータ処理・可視化・最適化などの情報処理技術の応用を学ぶ。

◇社会基盤・環境工学コース【学士(工学)】 「安全・安心な社会の構築」と「人と環境にやさしい持続可能な社会の創出」を担う技術者・研究者の育成をめざし、環境工学、建設工学、防災工学の各分野を学ぶ。

データサイエンス応用副プログラム ベースとなる専門性と、データサイエンスの知識を併せ持ち、専門的な技術課題の解決にデータサイエンスの知識を活かすことができる人材を養成する。

半導体人材育成副プログラム ベースとなる専門性に加えて半導体の基礎知識を併せ持つことで、半導体産業において自分の専門性がどのように活かされるかを理解し、その産業貢献に意欲をもつ人材を養成する。

地域創生特別プログラム

～ものづくり系～ ベースとなる専門性に加えて、ものづくりを通して地域課題を解決するための幅広い実践技術を身につけ、独自技術を開発して地域産業の発展に貢献しようとする意欲をもつ人材を養成する。

～防災・まちづくり系～ 建設工学・環境工学・防災工学の全般に渡る幅広い教養を身につけるとともに、主体性や協働性を発揮して地域防災を考慮したまちづくりに取り組むことのできるリーダーシップを持った人材を養成する。また、地域防災やまちづくりの専門分野を深く理解し、従来の学問領域にとらわれず、より柔軟な手法の構築により「安心・安全な社会の構築」「持続可能社会の創出」に関する課題発見および解決に資する科学技術の創生と発展に貢献できる人材を養成する。

【農学部食料農学科】

地球環境の変化に伴う安定した農業生産への懸念、高齢社会による健康への不安は益々深刻化している。食料生産は人類の生存基盤であり、そこから生まれる食品が私たちの健康を支えており、両者は密接に関わっている。したがって、持続的な食料システムの構築を実現するためには、食料生産から食品にいたるプロセスを含有する教育・研究が必要不可欠であり、その両者の観点を有する人材は、次世代の食料生産と食品・健康に関する課題解決に有益な人材となり得る。その背景から、食料農学科では、農学に関連した産業の持続的な発展と振興に関する分野、国内外の食品産業の発展や超高齢社会における食を通じた人々の健康に関する分野を教育研究していく。これにより、地域・国際社会での食料生産、食品供給、健康分野における課題解決や新しい価値の創出を通じて、健康で持続的な食料と食品の生産・供給を担う人材の育成を目指す。

【農学部生命科学科】

生命科学科は、生命の営みの基本であるタンパク質や核酸、糖鎖や脂質などが関与する分子レベルの反応に焦点を当て、生命現象を分子レベルで理解することにより、地球環境問題の解決、種の多様性の保存、健康寿命の延長など、次世代の諸問題の解決を先導できる人材育成を目標とする。

【農学部地域環境科学科】

地域環境科学科では、持続可能な食農の科学、地域生態保全、森林資源の管理と持続的な利用、持続的農業生産と環境管理、農業インフラの整備、スマート農業システムの導入、グリーントランスフォーメーションについて、地球環境問題とSDGsへの対応をベースとした教育を行う。

【農学部動物科学・水産科学科】

現在、我が国の食料自給においては、畜産物および水産物、すなわち動物性タンパク質の生産と安定供給が極めて重要である。特に、本学が位置する岩手県は、国内有数の畜産基地であり、また国内有数の海産物の水揚げ量を誇る三陸沿岸を有することから本学農学部における畜産学および水産学教育と人材育成にかかる期待も大きい。今後、北東北地域のみならず我が国における家畜生産および水産業のさらなる発展のためには、動物性タンパク供給という共通のミッションをもつ動物科学分野と水産学分野が共同で学科を組織し、畜産分野と水産分野に共通する課題やその解決にむけた教育研究を実施する意義は極めて大きい。さらに、里山における野生動物の管理や海洋環境における生態系の保護など両分野が担う使命は今後ますます重要であり、それら教育研究も本学科における重要なミッションである。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

岩手大学の教職課程は、21世紀の課題である持続可能な社会の発展に必要な幅広く深い知識と教養の基礎の上に、学校現場を含む地域の教育的課題に応えつつ、確かな学力と思いやる心を育むための優れた専門知識と柔軟な実践指導力を備えた教員の養成を目指している。

それら人材の育成の目的を通して、学校現場を含む地域の教育的課題に対応できる教員養成を図っている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【教育学部学校教育教員養成課程】

教養教育科目と専門教育科目で構成される系統的な教育課程により、教員として共通に身に付けるべき基礎となる内容（基礎力の育成）に加え、自らが得意とする分野を形成する内容（専門分野の育成）の両面の育成を図る。学校教育とその背景をなす諸学問の理解及び豊かな人間性・社会性を備え、専門教科の内容及び教育方法について専門的知識・能力を深めるとともに、4年間一貫の実習カリキュラムにより、教員としての意欲と高い使命感を持ち、学校現場での諸課題に対する実践能力・問題解決能力を身に付けた人材を養成する。

【理工学部理工学科】

理工学部理工学科は、我が国が目指す未来社会で必要とされる情報リテラシーと確かな専門性を併せ持ち、地球環境問題をはじめとする国際社会ならびに地域社会が抱える諸課題の解決に貢献できる理工系人材を養成する。①確かな専門性に加えて豊かな教養と情報リテラシーを有し、自らの専門分野の課題に対し、主体性と協働性をもって取り組むことのできる人材、②国際社会や地域社会が直面している課題を正しく理解し、持続可能な社会の構築のために、「ソフトパス理工学」の理念を実践できる人材を養成する。教養教育科目、各コースの専門教育課程プログラム、各副プログラム等（データサイエンス応用副プログラム、半導体人材育成副プログラム、地域創生特別プログラム）による4年間の教育を通じて、高等学校教育に求められる十分な専門知識と、それに裏打ちされた授業実践力、学校現場の課題に応えようとする教育的意欲と、高い実践的指導力を備えた教員の養成を目指す。

【農学部食料農学科】

本学科は農学コースと食品健康科学コースから構成される。農学コースは、持続的な食料システムの生産、環境、政策等に関わる専門知識と実践的技術を習得させることで、対象とする事象を俯瞰的に捉え、科学的に思考する手法を身につけさせることを目的に教育を行う。食品健康科学コースは、食材や食品、その成分の物理的・化学的特性、高度な食品加工、食品や天然素材の健康機能性に関わる専門知識と実践的技術を習得させ、それらを活かして食料、健康に関する諸問題や未知事項について多面的に思考し、国内外の食品健康産業の発展に貢献する想像力と実践力を身につけることを目的に教育を行う。

以上の目的達成のため、本学科では、各年次によって段階的に、農学系・理学系科目をバランス良く配置し、コースを横断しての科目の受講も可能にするカリキュラムを編成している。これにより、農学および理学系の幅広い知識をもち、食料や食品の生産・供給に関する背景や課題を多面的に理解し、食を通じた人々の健康に関する分野を教育できる理科教員および農業教員の養成に取り組む。

【農学部生命科学科】

生命科学科は動植物、微生物に特徴的な生命現象を扱う分子生物機能学コースと、動物や人の健康に関わる研究を行う分子生命医科学コースで構成されている。本学科では生命の営みの基本であるタンパク質や核酸、糖鎖や脂質などが関与する分子レベルの反応に焦点を当て、農学および生物学の基礎部分の理解を進展させる教育・研究を行う。分子レベルでの反応を深く理解することで、その原理を利用し、生物の機能強化を可能にし、様々な疾病の予防など、人類が直面している多くの課題の克服を可能にする。生物の分子レベルでの知識と理解に立脚し、様々な問題を俯瞰的に捉え、地球環境問題の解決、種の多様性の次世代への保存、健康寿命の延長など、次世代の諸問題の解決を先導できる人材育成を目標とする。

ゲノム編集やiPS細胞を代表とするような革新的な生命科学技術の開発とゲノムデータ情報処理技術の飛躍的な進展に伴い、農作物の育種や、医薬品および先端医療技術の開発が行われている。そのため、逐次変化する生命科学に関する新発見や先端的な技術の内容をわかりやすく説明することができ、生命科学技術の進展と社会や日常生活との関係性も明確に指摘できるような能力と生命倫理に対する深い造詣を備えた教員の養成が必要となっている。このような背景に基づき、本学科では、生命科学に関する基礎から応用までの幅広い知識や実験技術を兼ね備えた理科教員の育成に取り組む。

【農学部地域環境科学科】

地域環境科学科において、革新農業コースでは、農業と食を切り拓く革新的な農業技術について総合的に学び、グローバルな視点と高度な専門知識を備えて地域農業を先導するとともに、持続可能な食料・農業・農村システムの実現に向けた取り組みを通じてSDGsに関する教育を担当できる教員の養成を行う。また森林科学コースでは、東北地域の恵まれた自然環境を背景として、森林の持つ多様な環境保全機能や樹木資源の生産と利用、自然生態系の保全・管理、防災を含めた幅広い分野について総合的に学び、自然との共生関係を築きながら発展できる地域社会の実現に貢献する教員の養成を行う。

【農学部動物科学・水産科学科】

動物科学・水産科学科は、畜産物および水産物の生産と供給を担う二つの産業基盤を背景とした教育・研究を行うとともに、野生動物や海洋生物の生理・生態とそれらの有益な利用方法に関する知識および技術の教育・研究を行うことにより、動物・水産資源の安定的な生産と供給、その高度利用に貢献する人材を育成する。動物科学コースでは、産業動物生産（畜産）と野生動物を含む幅広い動物種の保護・管理に関する知識および技術に関する教育・研究を基盤とし、動物関連産業の発展と生命科学に関する高度な科学技術の開発に貢献する専門職業人材を含め、人と動物が共生する豊かな地域社会の創造に資する人材を育成する。水産システム学コースでは、水産業に関わる基礎的な知識や技術に関する教育・研究を基盤とし、分野横断的な幅広い知識や技術の習得を通して水産業全体を俯瞰する総合的な観点からわが国の水産業成長産業化に寄与できる専門職業人材を育成する。

以上をふまえ、本学科では、農学および生物学に関する幅広い知識や技能と、化学、物理学さらには地学に関する基礎的な知識に裏付けられた科学的思考力と実践力を備え、自然科学と環境、食糧生産に関する背景や課題を十分理解し、我々が科学的な知識や経験に基づく豊かな生活を営むために必要な知識を学校現場での確に伝えることのできる理科教員および農業教員の養成に取り組む。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【教育学部学校教育教員養成課程】

＜高等学校教諭一種免許状（情報）＞

サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、社会発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会(Society5.0)では、ビッグデータを有効に活用してビジネスや個人の意思決定に役立てる社会、いわゆるデータ駆動型社会を標榜している。これにともない学校教育では「GIGAスクール構想」が推進され、同時にプログラミング教育・統計教育をはじめとする情報教育の充実が求められている。教育学部教育教員養成課程では「情報教育学サブコース」を設置し、「数理・データサイエンス、AI教育 応用基礎レベル」認定取得もにらみ（令和6年度に申請予定）、教科横断的(STEAM)、文理融合的な学びを推進するために、「基礎統計解析の理論と実践」、「STEAM教育実践演習」等の5科目10単位をコース専門科目として位置づけている。このような専門性を活かしつつ、本課程の強みである初等中等教育を一貫した情報科学・情報技術に強い教員の育成をめざして、高等学校一種（情報）の教職課程を設置する。

【理工学部理工学科】

＜高等学校教諭一種免許状（数学）＞

基礎数学、代数学、幾何学、解析学、確率統計学など、基礎系の数学科目をバランスよく配置するとともに、現代社会において重要なコンピュータ関連科目も開設する。これらの学修で得た知識・学力を基盤とし、さらに専門発展的な数学関連科目による教育を通じて、数学の基礎能力・応用展開能力を有する教員を養成する。

＜高等学校教諭一種免許状（理科）＞

本学科では、物理学、化学、生物学、地学などの学修を通じて自然科学の基礎的な知識を身につけることができるとともに、各分野の専門知識をさらに深めることができよう、有機化学、無機化学、量子物理学、超電導理工学、地震・火山防災工学、資源循環工学などの科目を開設する。これらの学修を通じ、理工学的素養を身につけ、論理的かつ自然科学的な思考による課題解決能力を有する教員を養成する。

<高等学校教諭一種免許状（情報）>

本学科は、人工知能の基礎と応用、データサイエンス、ネットワーク技術などのコンピュータ・サイエンスに関わる専門知識をもち、これらを活用して実社会の問題を解決できる人材、また、情報デザイン、ヒューマンインタフェース、コンピュータグラフィックスなどに関わる知識をもち、創造的思考と情報技術を用いて実社会の問題を解決できる人材を育成するため、コンピュータネットワーク、データベース、情報理論、メディアシステム、ソフトウェア構成論、オペレーティングシステムなどの専門科目を開設する。

情報化社会がさらに発展することが予想され、関連人材が不足することが懸念される昨今、高等学校教育における情報教育の重要性がますます高まっていることを受け、情報に関する基礎知識、高い専門的応用力、倫理観を持ち、高等学校教育の現場において生かすことができる教員を養成する。

<高等学校教諭一種免許状（工業）>

材料力学、製錬工学、接合工学、電磁気学、エネルギー変換工学、機械力学、機械工作実習、コンクリート工学、環境工学などの履修を通じて、工業に関連する基礎知識、応用展開能力を身につけることにより、現代の産業社会、地域社会が抱える諸課題に積極的に向きあう意欲をもって生徒を教え導くことができる、高等学校教員（工業）を養成する。

【農学部食料農学科】

<高等学校教諭一種免許状（理科）>

食料農学科での教育活動と研究内容は、農学、食品、生命科学などの広い領域において、その化学と生物学に関連する科学的知識と技術を持って我が国の産業と科学技術の発展に貢献している。近年、このような科学技術の成果は、社会のあらゆる分野で活用されており、日々進歩している。そのため、逐次変化する科学技術の内容をわかりやすく説明することができ、科学技術の進展と社会や日常生活との関係性も明確に指摘できるような能力を備えた教員の養成が必要となっている。食料農学科は、生物学や化学に関する講義に加えて、演習や実験などの実学的な授業科目、農業や食品産業に関わる専門知識や技術を教授する科目をバランスよく配置したカリキュラムを構築しており、これらの授業科目を修得する中で、植物や微生物の生命現象、生物資源の生産と有効利用、環境化学、食品と健康に関する高等理科教育のため広範かつ深い知識と理論を基礎とした理科教育を行える教員人材の養成が可能であると考え、高等学校教諭一種免許状（理科）の教職課程を設置する。

<高等学校教諭一種免許状（農業）>

地球環境の変化に伴う安定した農業生産への懸念、高齢社会による健康への不安は益々深刻化しており、農業や食品産業を通じて、健康的で持続的な食料と食品の生産・供給を担う人材の育成が求められる。食料農学科は、生産技術、環境保全、経営等の食料システムを構成する要素、食品科学および健康科学の総論から各論まで網羅するカリキュラムを編成しており、講義・演習・実験・実習の授業科目を修得するなかで、食料生産、食品産業および健康科学に関する専門知識をもち、農業や食品産業の抱える諸問題に多面的かつ広い視野をもつとともに、それらに関わる科学と理論を基礎とした農業教育を行える教員人材の養成が可能であると考え、高等学校教諭一種免許状（農業）の教職課程を設置する。

【農学部生命科学科】

<高等学校教諭一種免許状（理科）>

近年、中高生の理科に対する興味や関心の低下とそれに伴う学力の低下が懸念されており、若い世代への理科学科への興味喚起が必須である。特に、最新の生命科学研究の成果は教科書が改訂されるたびに学習内容に反映されており、そのような新知見を生徒にわかりやすく説明できるような教師の育成が必要になっている。また、遺伝子改変技術の医療応用や、究極の個人情報であるゲノム情報の取り扱いなど、今後ますます大きな社会問題となると考えられるため、最新の生命科学分野の基礎的知識と応用的な領域の知識を修得するとともに、生命科学の社会に及ぼす影響などについても広い視野を持って生徒に問題提起することができる理科教員を養成するために生命科学科に高等学校教諭一種免許状（理科）の教職課程を設置する。

【農学部地域環境科学科】

＜高等学校教諭一種免許状（理科）＞

現在、高校の理科教育においては、生活や産業との関連性や環境を強く意識させる内容が重視されている。本学科は、物理学、化学、生物学、地学に関わる講義・演習・実験科目の履修により理科全般の基礎的な知識と実験技術を身につけるとともに、専門分野の学修により環境問題やSDGsに関する高い専門性を身につけることができるカリキュラムを編成している。本学科の「地域生態系保全論」や「森林保全生態学」などの講義では、地球環境問題、生物多様性といった今後更に重要視すべき諸課題を扱っている。また、附属農場や附属演習林を活用した実践的な学習を通して、理科教育の中で重要性が増している地球環境問題について学ぶ。よって、本学科は、理科全般の幅広い知識を備え、学校現場で環境教育を行える理科教員の養成が可能であると考え、高等学校教諭一種免許状（理科）の教職課程を設置する。

＜高等学校教諭一種免許状（農業）＞

スマート農業・林業技術を核とした、農村・森林・林業の環境や農業・森林・林業の基盤インフラ整備の技術の開発、地域のネットワークづくり、次世代型食料システムの創出を担うことのできる人材は今後ますます必要となる。地域環境科学科では、グローバルな視点と高度な専門知識を備えて地域農業を先導するとともに、持続可能な食料・農業・農村・林業システムの実現に向けた取り組みを通じて SDGs 達成に貢献できる教員を養成する。本学科では、農林学に関わる講義・演習・実験・実習の授業科目を修得するなかで、農林業の教育に必要な感性を磨き、食料・農業・農村・林業システムとそれをとりまく農業 DX 技術を基礎としたスマート農業・林業も含めた農業教育を行える教員の養成が可能であると考え、高等学校教諭一種免許状（農業）の教職課程を設置する。

【農学部動物科学・水産科学科】

＜高等学校教諭一種免許状（理科）＞

現在、我が国の理科教育においては、医歯薬系、看護系、さらに農業系学部進学のための基盤的科目である「生物」が極めて重要である。本学科では、理科全般の基礎科目を低年次に履修し、学年進行に従って、生物学の基礎的な科目（発生生物学、基礎遺伝学など）から専門性の高い科目（動物生殖学、動物遺伝育種学など）を学修することで、広範で最先端の生物科学の知識を身につけることが可能となっている。

また、本学科は、家畜生産および水産業のさらなる発展に資する人材の育成を目的としているが、そのなかには、本学科で修得した知識や技術を理科教育に展開し、自らが地域の人材育成に対して貢献することも含まれる。

よって、動物科学・水産科学科に高等学校教諭一種免許状（理科）の教職課程を設置する。

＜高等学校教諭一種免許状（農業）＞

現在、我が国の食料自給においては、畜産物および水産物の生産と安定供給が極めて重要である。特に、本学が位置する岩手県は、国内有数の畜産基地であり、また国内有数の海産物の水揚げ量を誇る三陸沿岸を有することから本学農学部における畜産学および水産学教育と人材育成にかかる期待も大きい。そのようななかで、高等学校における農業教育は、これまで通り、農業や畜産業の従事者の養成はもとより、農作物や畜産物の加工、販売に携わる二次的産業、さらにはそれらによる地域社会の維持発展を担う人材を育成することが求められている。本学科は、家畜生産および水産業のさらなる発展に資する人材の育成を目的としているが、そのなかには、本学科で修得した知識や技術を農業教育に展開し、自らが次世代の農業関連人材の育成に対して貢献することも含まれる。

よって、動物科学・水産科学科に高等学校教諭一種免許状（農業）の教職課程を設置する。

様式第7号イ

. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	岩手大学教員養成支援センター
目的：	教員養成の充実・強化、質の保証及び教員免許に関わる研修の実施等について、全学的視点から取組むことを目的に設置し、教職に関する科目及び教職実践演習の企画・運営に関すること、教育実習及び教育実習事前事後指導の企画・運営に関すること、教員免許更新講習の企画・運営に関すること。教育職員免許状取得希望者への支援等に関すること等の業務を行う。
責任者：	岩手大学教員養成支援センター長
構成員(役職・人数)：	センター長1名(教育学部教授兼任)、センター専任教員2名(岩手県教育委員会から派遣の教員1名、特命教授1名)、兼務事務主査1名、事務補佐員1名 合計人数：5人(センター教職員数)
運営方法：	教員養成支援センターの運営に関しては、以下記載の教員養成支援センター運営委員会において審議・決定する。

組織名称：	岩手大学教員養成支援センター運営委員会
目的：	教員養成支援センターの運営に関し、次の事項を審議する。センターの管理・運営に関する基本方針及び兼務教員推薦や専任教員資格審査などの人事案件、教職科目及び教職実践演習の開講に関すること、教育実習及び教育実習事前事後指導の実施に関すること、教職課程の自己点検・評価、その他センターの運営に関する重要事項。
責任者：	委員長：教員養成支援センター長
構成員(役職・人数)：	センター長1名(委員長を兼ねる)、センター専任教員2名、教職課程を置く各学部2名(内1名は教務委員長あるいは副委員長)、学務部長1名を委員とする全学委員会組織。 合計人数：14人(運営委員+事務担当)
運営方法：	年4回程度開催し、教職授業科目(教職実践演習含む)開設に係る授業担当教員の調整、教育実習希望者の取りまとめと実習校の調整、教育実習事前・事後指導実施に係る担当教員の調整、教職課程の自己点検・評価の調整等を行っている。

組織名称：	教育学部学務委員会
目的：	教育学部における次の事項を審議し、実施することを任務とする。 教養教育に関すること、専門教育のカリキュラム編成・企画に関すること、専門教育の授業科目及び時間割編成に関すること、専門教育の学生の在籍(生活指導を除く。)に関すること、教育課程の運営及び企画に関すること、学生教育にかかる点検評価に関すること、その他学務に関する重要事項。
責任者：	学務委員長

様式第7号イ

<p>構成員(役職・人数)： 委員長，副委員長のほか，次に掲げる者をもって組織する。</p> <p>各科から選出された教員各1名，教育学研究科から選出された委員1名。</p> <p>計12名</p>
<p>運営方法：定例開催するほか，委員長が招集し必要に応じて随時臨時開催する。委員の3分の2以上の出席を持って成立し，出席した委員の過半数を持って決する。</p>

<p>組織名称： 教職指導・教育実習委員会</p>
<p>目的： 教育学部における次の事項を審議し，実施することを任務とする。</p> <p>教育実習(主免・副免)の計画及び実施に関すること， 教育実習研究(教育実習事前事後指導)に関すること， 観察実習,学校体験実習及び地域教育実習に関すること， 附属学校及び教育実習協力校との連絡・協議に関すること， 介護等体験に関すること， 教職入門及び教職実践演習等に関すること， その他教育実習及び教職指導に関し必要な事項</p>
<p>責任者： 教職指導・教育実習委員長</p>
<p>構成員(役職・人数)： 委員長及び副委員長のほか、各科から選出された教員各1名をもって構成される。</p> <p>原則構成員は14名で組織する。</p>
<p>運営方法：定例開催するほか，委員長が招集し必要に応じて随時臨時開催する。委員の3分の2以上の出席を持って成立し，出席した委員の過半数を持って決する。</p>

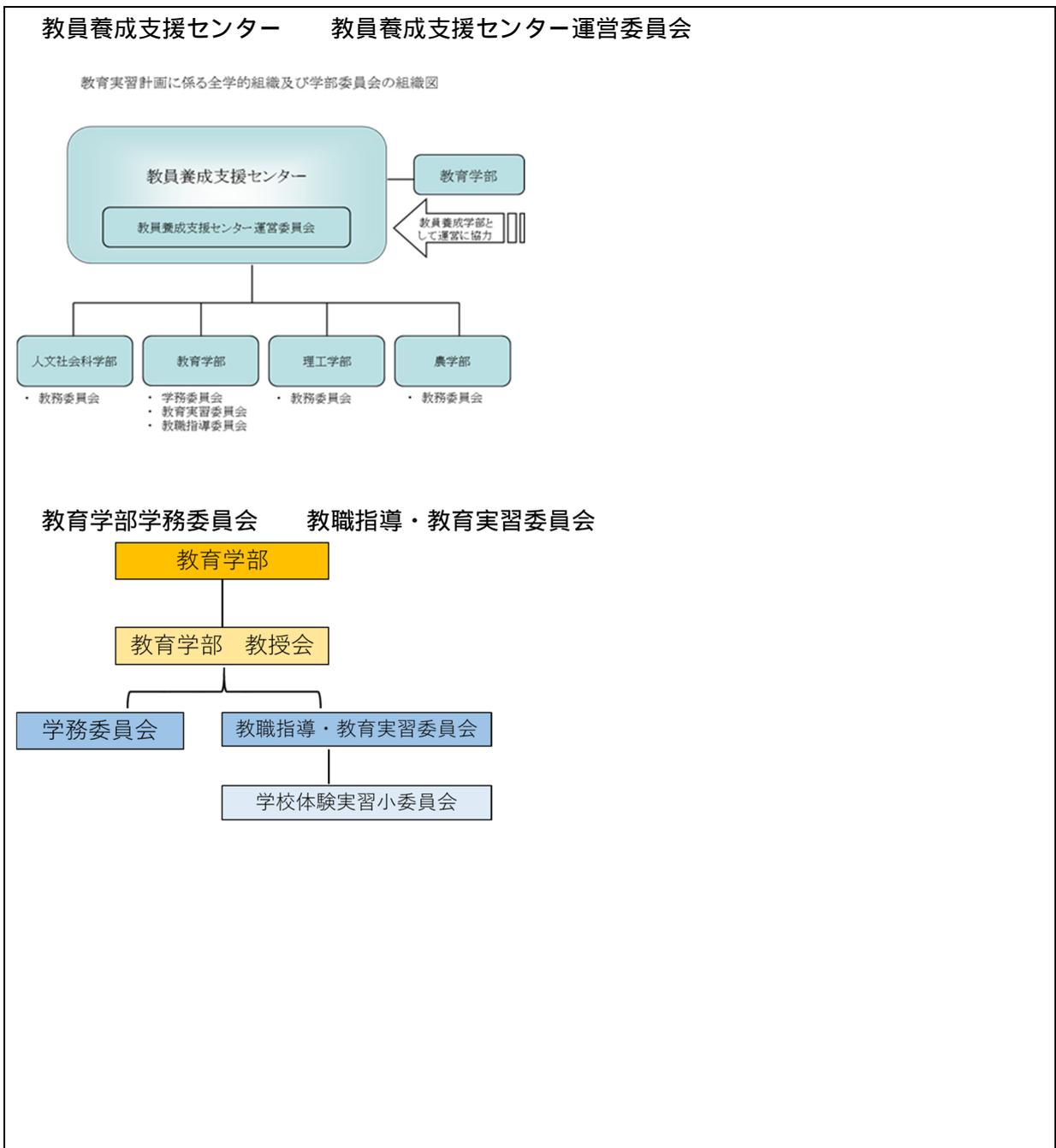
<p>組織名称： 理工学部教務委員会</p>
<p>目的： 理工学部運営会議のもと、理工学部の専門教育に関する事項を審議・決定することを目的に設置する。理工学部の教育課程の編成や授業科目の履修等について審議・決定するほか、教育実習の実施について審議する。</p>
<p>責任者： 教務委員長</p>
<p>構成員(役職・人数)： 委員長1名、副委員長3名(内2名はコース選出委員が兼ねる)、各コースから選出された委員8名の計10名で構成。委員長及び副委員長の内の1名は、学部長が指名をする評議員または学部長特別補佐とし、全学対応副委員長及び学部内対応副委員長は、委員の互選により決定する。</p>
<p>運営方法：委員会は、コース選出委員全員の出席を要する。委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長(委員長)の決するところによる。</p> <p>教育実習に関する本委員会の主な任務</p> <p>教育実習の立案・決定に関すること。 教育実習事前・事後指導に関すること。</p> <p>教育実習の単位認定に関すること。 大学内及び実習校との連絡調整に関すること。</p>

<p>組織名称： 農学部教務委員会</p>
<p>目的： 農学部教授会のもと、農学部の専門教育に関する事項を審議・決定することを目的に設置している。農学部の教育課程の編成や学生の学籍等について審議・決定するほか、教育実習の実施について審議する。</p>

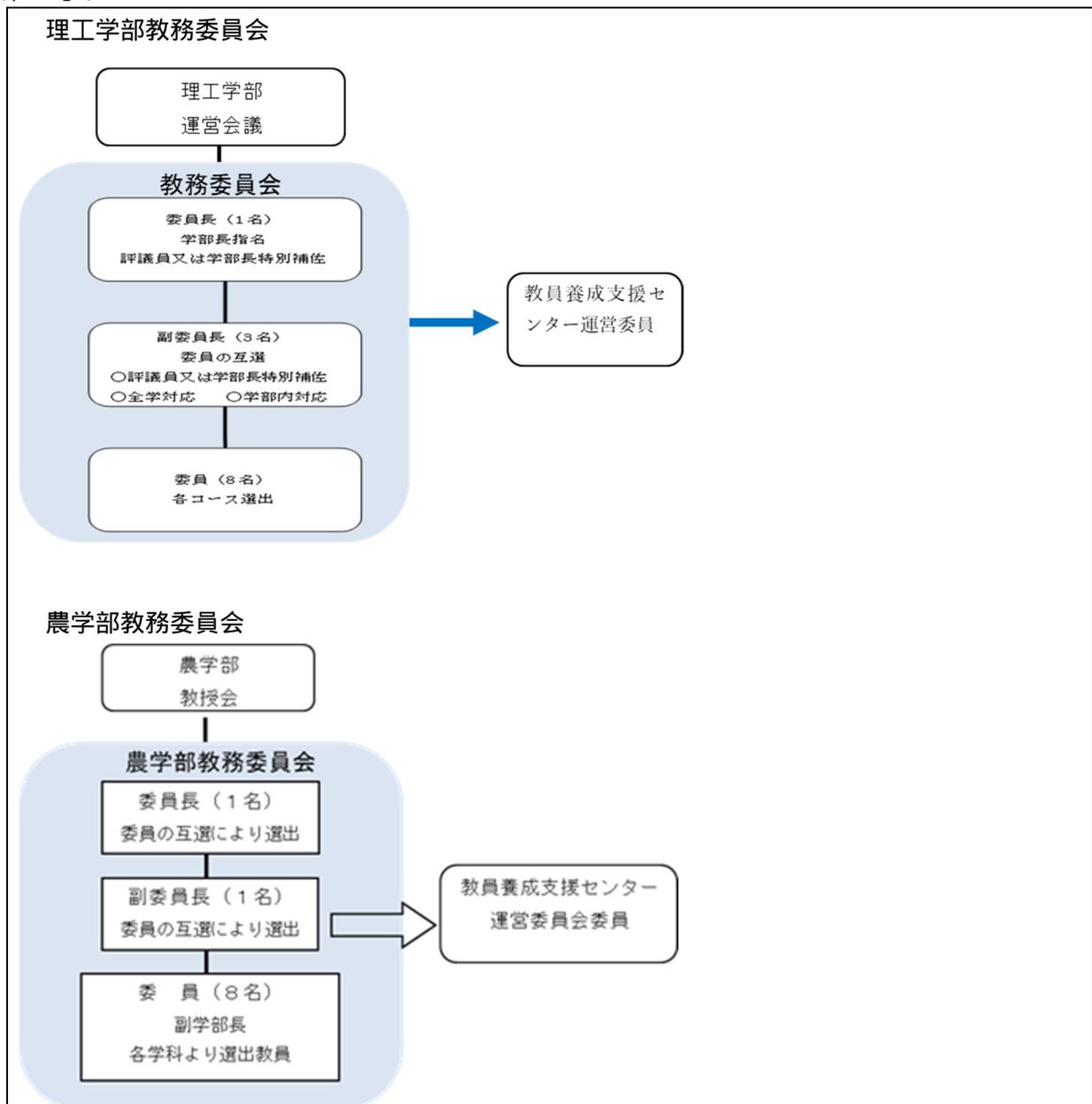
様式第7号イ

責任者：	教務委員長
構成員(役職・人数)：	委員長1名、副委員長1名、副学部長1名、各学科から選出された委員9名の計12名で構成。委員長、副委員長は各学科から選出された委員のうちから互選により決定する。
運営方法：	委員会は、原則として全委員の出席をもって成立する。委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長(委員長)の決するところによる。
審議事項は以下のとおりである。	<p>教育実習に関する本委員会の主な任務</p> <p>教育実習の立案・決定に関すること。 教育実習事前・事後指導に関すること。</p> <p>教育実習の単位認定に関すること。 大学内及び実習校との連絡調整に関すること。</p>

(2)(1)で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ



・ 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

【岩手県教育委員会との交流人事】

教員養成支援センターには、岩手県教育委員会から人事交流により公立学校教員1名が専任教員として派遣されている。国や地域の教育課題を捉えた上で、教育現場の経験に即した教職指導を行っている。また、交流者のメリットを生かし、協力校等との連携を密にし、教育実習の充実を図っている。岩手県教育委員会主催の研修会等に参加し、現場のニーズをくみ取り、教職課程の改善に役立っている。

【教育実習連絡協議会】(全学)

教員養成支援センター主催で教育実習協力校を中心とした、連絡協議会を実施し、協力校等と意見交換を行っている。

【学校体験実習連絡協議会】(教育学部独自)

2年次の「学校体験実習」に関する企画・運営・指導・評価、教育実習校との連携、教育実習

様式第7号イ

を履修する学生の指導・支援を行う。

委員長は「学校体験実習連絡協議会（以下連絡協議会）」を開催し、実習校（10校）の実習担当教員10名を招集して議長となり、主に学校体験実習の計画及び実施に関する事項を審議し実施する。

連絡協議会は原則、1年に2回（6月と10月）開催し、6月の定例会では上記実習の計画や実施に係る議事について審議し、また、10月の定例会では、実習に関する報告及び実習校と岩手大学との意見交換等を実施する。

【岩手大学教育学部・教職大学院地域連携協議会】（教育学部独自）

岩手大学教育学部・教職大学院地域連携協議会を設置し、毎年、岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会及び岩手県各校種の校長会等と、本学部に求める教員養成カリキュラムの内容や学部教育で充実させてほしい分野、教員就職率の向上に向けた取組等について協議し、得られた意見をカリキュラムの見直しや教職指導に反映させている。

その他、岩手県教育委員会とは定期的に意見交換等の機会を設け、教育課題等の情報共有を行っている。

（2）学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	地域教育実習
連携先との調整方法：	教育学部の教職指導・教育実習委員会が各市町村教育委員会と連絡調整を行っている。
具体的な内容：	<p>4年次前期集中講義として開設している「小規模学校教育論」の一部として、実際に県内の小規模学校で実習を行っている。</p> <p>岩手県の学校教育の特徴の1つである小規模校の現状と岩手県教育委員会の施策、へき地・小規模校の教育活動の特色、複式学級の学習指導の在り方について理解を深めることを目的に、講義・演習及び「地域教育実習」を組み込んだ「小規模学校教育論」を設けている。</p> <p>この授業により、小規模校を有する地域の教育の現状や課題に強い関心を持ち、様々な学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する力や、少人数学級や複式学級の学習指導や生活指導についての知識や技能を学ぶことができる、貴重な学校体験活動の機会となっている。</p>

取組名称：	学習支援ボランティア
連携先との調整方法：	教育学部の附属施設である教育実践・学校安全学研究開発センターが受け入れ校と連絡調整を行っている。
具体的な内容：	<p>盛岡市内の小中学校での学習支援ボランティア活動により、1)学校教育活動、2)教職員の指導や業務、3)子どもの想い、4)保護者や地域の方々の想い、を知ることが目的として下記の内容を行っている。</p> <p>学習支援ボランティア活動の内容例：</p> <p>算数科などの学習支援(個別指導や丸付け等) 実技等の学習支援(家庭科ミシン縫い・アイロンがけ補助) 校外学習安全見守り支援 朝学習・放課後学習支援(丸つけや個別指導) 図書館環境整備 等</p>

・教職指導の状況

教員養成支援センターと各学部の協力のもと、1年次から4年次までの教職課程の指導では、教育の基礎的理解に関する科目等、観察実習（教育学部のみ）、学校体験実習（教育学部のみ）、教職実践演習などの講義・演習・実習等による学びを中心に系統的に行う。1年次に配布する履修カルテ（教職ポートフォリオ）を活用し、学生自身が継続的に学びと省察を繰り返し、理論と実践とを往還しながら、より実践的で質の高い教員養成を目指している。

また、下記の取り組みを行っている。

- ・教員養成支援センターによる「学生相談室」を開設しており個別相談を行っている。
平日の午前中、教員経験者4名が対応
- ・学務課事務職員が学生のたてた履修計画への助言や履修相談を行っている。
- ・教員採用試験対策として、各自治体担当者による説明会、面接指導や模擬授業、小論文の指導、実技系科目の指導対策を行っている。
- ・教育学部事務室隣のキャリアアップルームを自習室として開放し学生に利用させている。また同室には、教員採用試験に関する雑誌、関連業界新聞、岩手県や近隣自治体の過去問題集を設置し、学生に閲覧させている。

教育学部では、教職指導・教育実習委員会を中心に、以下のとおり実施している。

【1年次】

- ・前期科目「教職入門」にて教職ポートフォリオの作成について指導する。
- ・「観察実習」における事前説明会において学生へ目標設定をさせ、事後指導を通して、教職への思いを確認させる。
- ・学生に、学期末において1年間の学びを振り返りさせ、単位修得状況を確認させる。担任が教職ポートフォリオにコメントを記入。必要に応じて指導・助言を行う。

【2年次】

- ・教科教育法の修得を進め、学校体験実習に向けて十分な心構え、指導方法等の学習を深める。
- ・介護等体験実習、学校体験実習において、目標設定を行い、振り返りを行う。
- ・学生に、学期末において1年間の学びを振り返りさせ、単位修得状況を確認させる。担任が教職ポートフォリオにコメントを記入。必要に応じて指導・助言を行う。

【3年次】

- ・教科教育法の修得を進め、主免教育実習に向けて十分な心構え、指導方法等の学習を深める。
- ・主免実習での経験をもとに、教職への思いや学習状況を確認させる。
- ・学生に、学期末において1年間の学びを振り返りさせ、単位修得状況を確認させる。指導教員が教職ポートフォリオにコメントを記入。必要に応じて指導・助言を行う。

【4年次】

- ・副免実習に向けての準備や事後の振り返りを行う。
- ・「教職実践演習」にて、4年間の振り返りを行う。
- ・学生に、学期末において1年間の学びを振り返りさせ、単位修得状況を確認させる。指導教員が教職ポートフォリオにコメントを記入。必要に応じて指導・助言を行う。

様式第7号イ

○教職支援

教員採用試験受験率向上のため教育学部教職支援室を設置し、教員採用試験対策、教職に関する相談、教職に関する情報提供等の支援を行っている。

教員採用試験対策としては、例年6月～8月にかけて、教員採用試験の2次試験対策として、面接指導、ピアノ弾き歌い、小学校英語、体育実技の各セミナーを開催している。

また、岩手県教育委員会から講師を招いての岩手県公立学校教員採用試験及び求められる教員像等に関する説明会、各自治体の教員採用試験説明会、臨時的任用教員に関する説明会の開催等を実施している。

その他、教職支援室では、教育学部生からの教員採用試験受験等に関わる相談を随時受け付けている他、学務課地域協創教育室キャリア教育グループでも、学生の個別のキャリア相談を実施している。

様式第7号ウ

＜教育学部学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（情報））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>①教育とは何か、学校教育の仕組、教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等の教育や教員としての基礎知識を理解する。</p> <p>②児童・生徒に対する指導・援助の方法、キャリア教育の基礎的理論を理解し、児童・生徒の実態を踏まえた生徒指導・進路指導を実践する力を養う。</p> <p>③観察教育実習により学校現場を参観し、教師観や子どもの理解への意識の形成を図り、理想とする教師像を目指して勉学する自覚と意欲を明確にする。</p> <p>④教養教育科目の技法知科目群（情報、健康・スポーツ・外国語）により、教員として最低限求められる情報処理技法、体育及び外国語能力の基礎を身に付ける。</p>
	後期	<p>①子どもの理解について、乳幼児期から青年期に至る発達を多面的に理解し、学習の指導を行う上で重要な心理学的知見を身に付ける。</p> <p>②情報通信技術やICT技術を効果的に活用した学習指導を習得する。</p> <p>③学校安全の目的、防災教育・復興教育の在り方を理解するとともに、学校安全・防災教育の実践に必要な資質・能力を身に付ける。</p> <p>④現在の学校教育につながる基本的な教育の理念・思想、それらの歴史的変遷を理解する。</p>
2年次	前期	<p>①特別の支援を必要とする児童・生徒の教育に関する理念や制度についての基本的考え方・変遷を理解し、今日の特別支援教育のあり方について学ぶ。</p> <p>②教育相談、学校現場が抱えている問題とその対処法、カウンセリング技法の基礎について理解する。</p> <p>③学校における特別活動の目的・内容・方法について基礎的な理解を持ち、教育実践上のイメージが持てるようになる。</p> <p>④学校体験実習において学校現場を体験し、学習指導、生徒指導、事務処理などの観点から学校現場を捉えることができるようにする。</p> <p>⑤情報工学に係る情報サイエンスに関する基礎的理論を学び、基礎的技術を習得する。</p> <p>⑥情報社会の特性や情報社会における職業、倫理について理解する。</p>
	後期	<p>①発達の諸理論の学修を通じて、養育・教育者として学習指導及び発達支援のための基礎を理解する。</p> <p>②教育方法の理論として、わが国の教育方法と教育課程の現状および学校教育上の諸課題との関係や今日の教育課程改革の動向について理解し、学習者の立場に立った教育実践・教育方法のあり方について、自分なりの考えを持てるようにする。</p> <p>③教科の指導法の基礎として、教科内容の構成や教科指導法の基礎理論に加え、学習指導案の作成などの実践的な知識を身に付ける。</p> <p>④情報工学の発展的な内容を学び背景となる学問の内容を理解する。</p> <p>⑤数理・データサイエンス、AI教育における基礎的な情報処理方法を習得する。</p>
3年次	前期	<p>①教育法規の学修を通じて、公教育の担い手としての義務や責任を理解し、教育に関する諸課題に対して関連法規を踏まえて論理的に考察できるようになる。</p> <p>②総合的な学習の時間の教育課程上の意義を理解し、総合的な学習の時間の指導計画の作成・実践に必要な知識・技能を身に付ける。</p> <p>③中学校教育実習（主免教育実習）を行い、一定期間の継続的な授業観察と授業実践を通して、教科指導、子ども理解を中心とした学校・教育活動についての理解、専門的指導技術を実践的に獲得し、教職についての自覚と使命感を深める。</p> <p>④教科の指導法について、主免教育実習の教壇実習の体験を生かしながら模擬授業や授業研究会に取り組み、学習指導案の作成、教材作成などの改善を行い、授業実践の能力を高める。</p> <p>⑤教科教育の原理に基づき、学習内容の教材研究を推進することができる。</p> <p>⑥適切な題材の設定、指導目標等の題材の指導計画が立案できるようになる。</p> <p>⑦情報システムの基礎やAIの基礎的理解と技術を習得する。</p>

履修年次		到達目標
年次	時期	
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ①学校や学級を経営する上で求められる経営的・制度的事項に関する基礎を身に付け、学校の一員として主体的に学校経営に参画する資質・能力を身に付ける。 ②数理・データサイエンス、AI教育における基礎的な情報処理方法を習得する。 ③情報通信ネットワークの原理を学び、簡単なネットワークシステムを構築することができる。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ①卒業研究に向けて、専門分野の学習理論、知識を研究に活かすことができる。 ②マルチメディア表現・マルチメディア技術に関する基礎的知識と技術を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ①副免教育実習により異校種・異教科の教育実習を経験し、学校・教育活動全体への理解を深め、教員としての知識及び指導技術等の実践力を高める。 ②教職実践演習において4年間の学修の総括として、教員として必要な資質能力、特に教員としての使命感や自覚、「学習の指導」に関する基礎的知識と実践力、「生活の指導」に関する基礎的な知識と実践力を確認、評価する。 ③4年間の集大成として自らの学修成果・到達点を確認し、卒業論文にまとめる。 ④情報工学、数理・データサイエンス、AI教育各分野及び情報教育に関する理解に基づいて、情報科教員としての実践力を習得する。 ⑤情報科教員に求められる資質・能力に対する自己分析及び今後の課題・展望を明らかにする。

様式第7号ウ（教諭）

<教育学部学校教育教員養成課程>（認定課程：高一種免（情報））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門			英語コミュニケーションⅠ	
		教育概論			健康・スポーツA	
		生徒指導・進路指導			憲法	
		観察実習(中・高)			情報基礎A	
	後期	学校安全学と防災教育			英語コミュニケーションⅡ	
		教育・学校心理学			健康・スポーツB	
		教育におけるICT活用法				
		教育の思想				
		教育の歴史				
2年次	前期	特別支援教育	情報社会と倫理			
		教育相談	情報工学Ⅰ			
		特別活動の理論と方法	教育情報システム演習			
		学校体験実習(中・高)				
	後期	発達心理学	情報工学Ⅱ			
		教育課程・教育方法論	プログラミング演習			
		情報教育法Ⅰ	基礎統計解析の理論と実践			

3年次	前期	教育法規[注]	情報システム概論			
		総合的な学習の理論と実践	統計的機械学習実践			
		教育実習研究(中・高)				
		中学校教育実習				
		情報教育法Ⅱ				
	後期	学校経営・制度論[注]	多変量解析の理論と実践			
			情報通信ネットワーク演習			
	4年次	前期		メディアシステム		
後期		教職実践演習				

[注]いずれか1科目選択必修

様式第7号ウ

<理工学科>(認定課程:高一種免(数学))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の数学教員になる目的意識を明確にしたうえで「教職入門」等の受講に臨み、教職に対する意識を高める。 ・教職に関する基礎知識を身につけ、教員の使命や職責について理解し、説明できるようになる。 ・綿密に4年間に及ぶ教職課程での学習計画を立て、専門教育課程学修との両立を図る。 ・教養教育科目の履修を通じて、多様な学問領域の基本的知識、基本的思考方法、語学力等を身につける。 ・専門基礎科目(数学系)の履修を通じて、高等学校教育に必要な「数学」の専門知識と思考力を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する概要を理解し、心理学の側面から教育について説明できるようになる。 ・教養教育科目の履修を通じて、多様な学問領域の基本的知識、基本的思考方法、語学力等を身につける。 ・専門基礎科目(数学系)等の履修を通じて、高等学校教育に必要な「数学」の専門知識と思考力を身につける。 ・数学関係科目の履修で学んだ内容を「数学」の専門知識として説明できる。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学教育の概要、授業及び教材研究の基本的事項について説明できる。 ・教材開発についての基礎知識及び技能を身につける。 ・高校数学の理解と科学的思考力の深化に必要な数理科学の専門知識を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学教員に必要な、数学の教育方法を身につける。 ・生徒指導、進路指導及び教育相談に関する基礎知識及び技能を身につける。 ・高校数学の理解と科学的思考力の深化に必要な数理科学の専門知識を身につける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次までの教職科目の学習内容を踏まえ、教育実習に必要な基礎知識及び技能へと発展させる。 ・教科指導法、生徒指導法、教育に関する使命感や倫理観、コミュニケーション力、課題解決力などを身につけ、教職に就くための準備として適切な思考と行動ができるようになる。 ・専門科目や専門演習科目の多様な学修を通じて、科学的探求心及び問題解決能力を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次までの教職科目の学習内容を踏まえ、教育実習に必要な基礎知識及び技能へと発展させる。 ・教科指導法、生徒指導法、教育に関する使命感や倫理観、コミュニケーション力、課題解決力などを身につけ、教職に就くための準備として適切な思考と行動ができるようになる。 ・専門科目や専門演習科目の学修を通じて、科学的探求心及び問題解決能力を深める。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員として最小限必要な資質や能力を身につけているか振り返り、必要な復習等を行い、教育実習に向けての準備を進める。 ・教育実習を通し、実践的指導力を身につけるとともに、自己課題の抽出と解決を行い、教員としての資質を向上させる。 ・教育実習によって学校現場で得られた知識と経験とあわせて、これまで多くの数学関係科目の受講で学んだ内容を総合的に踏まえて、効果的な学習指導と生徒指導が実践できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職実践演習によって教職に就くための総合力を身につけ、学習指導と生徒指導がより確実に実践できるようになる。 ・教職課程での4年間の学修を振り返って、教員になるうえでの課題は何かを確認し、自らに不足している知識及び技能を補い、定着させる。 ・学校現場で生じている問題を始め、地域や社会全体に関わる課題について理解し、他者と協力して対応できる素養を身につける。 ・これまでに習得した基礎・専門知識及び技能を再確認し、円滑に教員生活をスタートさせ「数学」の授業を行うことができるようになる。

様式第7号ウ（教諭）

<理工学科>（認定課程：高一種免（数学））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	基礎数学		憲法	
			微分積分学Ⅰ		情報基礎A	
					健康・スポーツA	
					英語コミュニケーションⅠ	
	後期	生徒指導・進路指導	微分積分学Ⅱ		健康・スポーツB	
		教育・学校心理学	線形代数学A		英語コミュニケーションⅡ	
特別活動の理論と方法		確率統計学				
2年次	前期	特別支援教育	ベクトル解析			
		教育概論	フーリエ解析			
		教育課程・教育方法論	微分方程式			
		教育法規	線形代数学B			
			幾何学Ⅰ			
	後期	総合的な学習の時間の理論と実践	複素解析			
		学校経営・制度論	応用確率統計学			
			応用微分方程式			
		幾何学Ⅱ				
3年次	前期	数学科教育法Ⅰ	物理数学演習Ⅰ			
			数値計算法			
			応用解析学			
	後期	教育相談	物理数学演習Ⅱ			
		数学科教育法Ⅱ	プログラミング学			
	教育におけるICT活用法					
4年次	前期	教育実習				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

<理工学科>(認定課程:高一種免(理科))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の理科教員になる目的意識を明確にしたうえで「教職入門」等の受講に臨み、教職に対する意識を高める。 ・教職に関する基礎知識を身につけ、教員の使命や職責について理解し、説明できるようになる。 ・綿密に4年間に及ぶ教職課程での学習計画を立て、専門教育課程学修との両立を図る。 ・教養教育科目の履修を通じて、多様な学問領域の基本的知識、基本的思考方法、語学力等を身につける。 ・教職に関する学修を通じて教職への意欲を向上させると同時に、専門基礎科目等の履修を通じて、高校理科教員に必要な、自然科学(物理、化学、生物、地学)の基礎知識と考え方を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する概要を理解し、心理学の側面から教育について説明できるようになる。 ・教養教育科目の履修を通じて、多様な学問領域の基本的知識、基本的思考方法、語学力等を身につける。 ・専門基礎科目(理科関係)等の履修を通じて、高等学校教育に必要な「理科」の専門知識と思考力を身につける。 ・理科関係科目の履修で学んだ内容を「理科(物理、化学、生物、地学)」の専門知識として説明できる。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高校理科教育の概要、授業及び教材研究の基本的事項について説明できる。 ・高等学校理科の理解と科学的思考力の深化に必要な専門知識を身につけ、理科に関する専門的な知識を活かした学習指導を行うことができる基本的スキルを習得する。 ・専門科目の講義や実験を通して、科学的探究心や問題解決能力を育む。 ・教材開発についての基礎知識及び技能を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・高校理科教員に必要な、理科の教育方法を身につける。 ・生徒指導、進路指導及び教育相談に関する基礎知識及び技能を身につける。 ・理科教育や教職に関する基礎知識を土台に、「授業づくり」の学習を発展させるとともに、高等学校理科の理解と科学的思考力の深化に必要な専門知識を身につける。また、専門科目の講義を通して、自然現象の理解に必要な思考力や問題解決能力を習得する。 ・専門基礎実験科目の履修により、基礎的な実験技術及び分析技術を身につける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次までの教職科目の学習内容を踏まえ、教育実習に必要な基礎知識及び技能へと発展させる。 ・教科指導法、生徒指導法、教育に関する使命感や倫理観、コミュニケーション力、課題解決力などを身につけ、教職に就くための準備として適切な思考と行動ができるようになる。 ・専門科目や専門演習科目の多様な学修を通じて、科学的探求心及び問題解決能力を深める。 ・専門実験科目を通じて、高度な実験技術、科学的探求心及び問題解決能力を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次までの教職科目の学習内容を踏まえ、教育実習に必要な基礎知識及び技能へと発展させる。 ・教科指導法、生徒指導法、教育に関する使命感や倫理観、コミュニケーション力、課題解決力などを身につけ、教職に就くための準備として適切な思考と行動ができるようになる。 ・専門科目や専門演習科目の多様な学修を通じて、科学的探求心及び問題解決能力を深める。 ・専門実験科目を通じて、高度な実験技術、科学的探求心及び問題解決能力を身につける。 ・理科に関する専門的な知識の深まりを土台として、科学に関する高い倫理観を育む。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員として最小限必要な資質や能力を身につけているか振り返り、必要な復習等を行い、教育実習に向けての準備を進める。 ・教育実習を通し、実践的指導力を身につけるとともに、自己課題の抽出と解決を行い、教員としての資質を向上させる。 ・教育実習によって学校現場で得られた知識と経験とあわせて、これまで多くの理科関係科目の受講で学んだ内容を総合的に踏まえて、効果的な学習指導と生徒指導が実践できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職実践演習によって教職に就くための総合力を身につけ、学習指導と生徒指導がより確実に実践できるようになる。 ・教職課程での4年間の学修を振り返って、教員になるうえでの課題は何かを確認し、自らに不足している知識及び技能を補い、定着させる。 ・学校現場で生じている問題を始め、地域や社会全体に関わる課題について理解し、他者と協力して対応できる素養を身につける。 ・これまでに習得した基礎・専門知識及び技能を再確認し、円滑に教員生活をスタートさせ「理科(物理、化学、生物、地学)」の授業を行うことができるようにする。

様式第7号ウ(教諭)

<理工学科>(認定課程:高一種免(理科))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	物理学A		憲法	
			化学A		情報基礎A	
			生物学		健康・スポーツA	
			地学		英語コミュニケーションⅠ	
	後期	生徒指導・進路指導	物理学B		健康・スポーツB	
		教育・学校心理学	化学B		英語コミュニケーションⅡ	
特別活動の理論と方法						
2年次	前期	特別支援教育	構造力学Ⅰ			
		教育概論	水理学Ⅰ			
		教育課程・教育方法論	土質力学Ⅰ			
		教育法規	化学実験			
	後期	総合的な学習の時間の理論と実践	構造力学Ⅱ			
		学校経営・制度論	水理学Ⅱ			
			土質力学Ⅱ			
			物理学実験			
3年次	前期	理科教育法Ⅰ	水理学演習			
			土質力学演習			
			社会基盤・環境工学実験			
			地震・火山防災工学			
			地質工学			
			大気環境工学			
	後期	教育相談	構造力学演習			
		理科教育法Ⅱ	耐震工学			
		教育におけるICT活用法	水・土砂防災工学			
4年次	前期	教育実習				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

<理工学科>(認定課程:高一種免(情報))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の情報教員になる目的意識を明確にしたうえで「教職入門」等の受講に臨み、教職に対する意識を高める。 ・教職に関する基礎知識を身につけ、教員の使命や職責について理解し、説明できるようになる。 ・綿密に4年間に及ぶ教職課程での学習計画を立て、専門教育課程学修との両立を図る。 ・教養教育科目の履修を通じて、多様な学問領域の基本的知識、基本的思考方法、語学力等を身につける。 ・「情報」関係科目の導入として、専門基礎科目(数学系等)の履修を着実に進め、「情報」に関する専門科目の学修にスムーズに移行できるようにする。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する概要を理解し、心理学の側面から教育について説明できるようになる。 ・教養教育科目の履修を通じて、多様な学問領域の基本的知識、基本的思考方法、語学力等を身につける。 ・「情報」関係科目の導入として、専門基礎科目(数学系等)の履修を着実に進め、「情報」に関する専門科目の学修にスムーズに移行できるようにする。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高校情報教育の概要、授業及び教材研究の基本的事項について説明できる。 ・教材開発についての基礎知識及び技能を身につける。 ・高校情報の理解と情報科学的思考力の深化に必要な専門知識を身につける。プログラミング言語を学修する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・高校情報教員に必要な、情報の教育方法を身につける。 ・生徒指導、進路指導及び教育相談に関する基礎知識及び技能を身につける。 ・高校情報の理解と情報科学的思考力の深化に必要な専門知識を身につける。コンピュータネットワークの基礎理論を学ぶ。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次までの教職科目の学習内容を踏まえ、教育実習に必要な基礎知識及び技能へと発展させる。 ・教科指導法、生徒指導法、教育に関する使命感や倫理観、コミュニケーション力、課題解決力などを身につけ、教職に就くための準備として適切な思考と行動ができるようになる。 ・ソフトウェア設計、ハードウェア設計などの専門科目や専門演習科目の学修を通じて情報に関する専門性を深める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次までの教職科目の学習内容を踏まえ、教育実習に必要な基礎知識及び技能へと発展させる。 ・教科指導法、生徒指導法、教育に関する使命感や倫理観、コミュニケーション力、課題解決力などを身につけ、教職に就くための準備として適切な思考と行動ができるようになる。 ・情報理論、オペレーティングシステムなどの専門科目や専門演習科目の多様な学修を通じて情報に関する専門性を深める。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの基礎を身につけ、情報倫理について学ぶ。 ・教員として最小限必要な資質や能力を身につけているか振り返り、必要な復習等を行い、教育実習に向けての準備を進める。 ・教育実習を通し、実践的指導力を身につけるとともに、自己課題の抽出と解決を行い、教員としての資質を向上させる。 ・教育実習によって学校現場で得られた知識と経験とあわせて、これまで多くの情報関係科目の受講で学んだ内容を総合的に踏まえて、効果的な学習指導と生徒指導が実践できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職実践演習によって教職に就くための総合力を身につけ、学習指導と生徒指導がより確実に実践できるようになる。 ・教職課程での4年間の学修を振り返って、教員になるうえでの課題は何かを確認し、自らに不足している知識及び技能を補い、定着させる。 ・学校現場で生じている問題を始め、地域や社会全体に関わる課題について理解し、他者と協力して対応できる素養を身につける。 ・これまでに習得した基礎・専門知識及び技能を再確認し、円滑に教員生活をスタートさせ「情報」の授業を行うことができるようにする。

様式第7号ウ(教諭)

<理工学科>(認定課程:高一種免(情報))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期	教職入門			憲法		
					情報基礎A		
					健康・スポーツA		
	後期				英語コミュニケーションⅠ		
		生徒指導・進路指導			健康・スポーツB		
		教育・学校心理学			英語コミュニケーションⅡ		
2年次	前期	特別支援教育	セキュリティとプライバシー				
		教育概論	デジタル通信				
		教育課程・教育方法論	プログラミング言語及び演習Ⅰ				
		教育法規	プログラミング言語及び演習Ⅱ				
	後期			情報社会と倫理			
		総合的な学習の時間の理論と実践	コンピュータネットワーク				
		学校経営・制度論	ソフトウェア構成論				
3年次	前期	情報教育法Ⅰ	信号処理				
			ロボティクス				
			コンピュータグラフィックス				
			メディアシステム				
			ソフトウェア設計及び演習				
			ネットワーク実験				
			情報職業論				
	後期	教育相談	画像処理とパターン認識				
		情報教育法Ⅱ	デジタル回路設計				
		教育におけるICT活用法	オペレーティングシステム				
			コンパイラ				
			数理計画法				
4年次	前期	教育実習	ヒューマンインタフェース				
			ハードウェア設計及び演習				
	後期	教職実践演習					

様式第7号ウ

<理工学科>(認定課程:高一種免(工業))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の工業教員になる目的意識を明確にしたうえで「教職入門」等の受講に臨み、教職に対する意識を高める。 ・教職に関する基礎知識を身につけ、教員の使命や職責について理解し、説明できるようになる。 ・綿密に4年間に及ぶ教職課程での学習計画を立て、専門教育課程学修との両立を図る。 ・教養教育科目の履修を通じて、多様な学問領域の基本的知識、基本的思考方法、語学力等を身につける。 ・教職に関する学修を通じて教職への意欲を向上させると同時に、専門基礎科目等の履修を通じて、高校工業教員に必要な基礎知識と考え方を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する概要を理解し、心理学の側面から教育について説明できるようになる。 ・教養教育科目の履修を通じて、多様な学問領域の基本的知識、基本的思考方法、語学力等を身につける。 ・専門科目(工業関係)等の履修を通じて、高等学校教育に必要な「工業」の専門知識と思考力を身につける。 ・工業関係科目の履修で学んだ内容を、「工業」の専門知識として説明できる。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高校工業教育の概要、授業及び教材研究の基本的事項について説明できる。 ・高等学校工業の理解と科学的思考力の深化に必要な専門知識を身につけ、工業に関する専門的な知識を活かした学習指導を行うことができる基本的スキルを習得する。 ・工業教育の歴史、現状及び課題について説明できる。 ・専門科目の講義や実験を通して、科学的探究心や問題解決能力を育む。 ・教材開発についての基礎知識及び技能を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・高校工業教員に必要な、工業の教育方法を身につける。 ・生徒指導、進路指導及び教育相談に関する基礎知識及び技能を身につける。 ・工業教育や教職に関する基礎知識を土台に、「授業づくり」の学習を進展させるとともに、高等学校工業の理解と科学的思考力の深化に必要な専門知識を身につける。また、専門科目の講義を通して、自然現象の理解に必要な思考力や問題解決能力を習得する。 ・実験科目、実習科目の履修により、基礎的な実験技術及び分析技術を身につける。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次までの教職科目の学習内容を踏まえ、教育実習に必要な基礎知識及び技能へと発展させる。 ・教科指導法、生徒指導法、教育に関する使命感や倫理観、コミュニケーション力、課題解決力などを身につけ、教職に就くための準備として適切な思考と行動ができるようになる。 ・職業指導に関する基礎知識を身につける。 ・専門科目や専門演習科目の多様な学修を通じて、科学的探求心及び問題解決能力を深める。また、システム開発等の実践的な技能を修得する。 ・専門実験科目を通じて、高度な実験技術、科学的探求心及び問題解決能力を身につける。 ・工業教育の理解の深化に必要な工業分野の学修を更に進める。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次までの教職科目の学習内容を踏まえ、教育実習に必要な基礎知識及び技能へと発展させる。 ・教科指導法、生徒指導法、教育に関する使命感や倫理観、コミュニケーション力、課題解決力などを身につけ、教職に就くための準備として適切な思考と行動ができるようになる。 ・専門科目や専門演習科目の多様な学修を通じて、科学的探求心及び問題解決能力を深める。また、システム開発等の実践的な技能を修得する。 ・専門実験科目を通じて、高度な実験技術、科学的探求心及び問題解決能力を身につける。 ・工業に関する専門的な知識の深まりを土台として、科学に関する高い倫理観を育む。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員として最小限必要な資質や能力を身につけているか振り返り、必要な復習等を行い、教育実習に向けての準備を進める。 ・教育実習を通し、実践的指導力を身につけるとともに、自己課題の抽出と解決を行い、教員としての資質を向上させる。 ・教育実習によって学校現場で得られた知識と経験とあわせて、これまで多くの工業関係科目の受講で学んだ内容を総合的に踏まえて、効果的な学習指導と生徒指導が実践できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職実践演習によって教職に就くための総合力を身につけ、学習指導と生徒指導がより確実に実践できるようになる。 ・教職課程での4年間の学修を振り返って、教員になるうえでの課題は何かを確認し、自らに不足している知識及び技能を補い、定着させる。 ・学校現場で生じている問題を始め、地域や社会全体に関わる課題について理解し、他者と協力して対応できる素養を身につける。 ・これまでに習得した基礎・専門知識及び技能を再確認し、円滑に教員生活をスタートさせ「工業」の授業を行うことができるようにする。

様式第7号ウ(教諭)

<理工学科>(認定課程:高一種免(工業))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門			憲法	
					情報基礎A	
					健康・スポーツA	
					英語コミュニケーションⅠ	
	後期	生徒指導・進路指導			健康・スポーツB	
		教育・学校心理学			英語コミュニケーションⅡ	
2年次	前期	特別支援教育	機械製図Ⅰ			
		教育概論	CAD実習			
		教育課程・教育方法論	材料力学Ⅰ			
		教育法規	機械材料学Ⅰ			
			流体力学			
	後期	総合的な学習の時間の理論と実践	機械製図Ⅱ			
		学校経営・制度論	機械加工学			
			機械力学			
			熱力学			
			材料力学Ⅱ			
			粘性流体工学			
	3年次	前期	工業教育法Ⅰ	職業指導		
			精密工学			
			制御工学			
			固体力学			
			伝熱工学			
			燃焼工学			
			生体工学			
後期		教育相談	トライボロジー			
		工業教育法Ⅱ	機械設計学			
		教育におけるICT活用法	センシング工学			
			航空流体工学			
4年次	前期	教育実習	機械材料学Ⅱ			
			ロボティクス工学			
			航空宇宙システム工学			
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜食料農学科＞(認定課程:高一種免 理科)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①教職の意義及び教員の果たす役割を説明できる。教師の職務内容(研修、服務規律、身分保障等)を理解し、生徒の進路選択に資する学校教育実践について説明できる。②高等教育レベルで最低限求められる情報処理技法、英語力の基礎を修得し身につける。③自然と科学技術との調和を考慮した幅広い基礎的な知識を修得する。
	後期	①生徒の心身の発達および学習の過程を学び、乳幼児期から青年期に至る発達を、心身障害児も含め多面的に理解する。②特別活動の指導方法を習得し、教員になる上で必要な特別活動の指導目標や指導内容について説明できる。③生徒指導に関係する「自己指導能力」「コミュニケーション能力」「児童生徒理解」「教育相談」「問題行動」「いじめ」「不登校」及び学校における生徒指導体制を理解し、教育実習や教員になったときに生徒指導をする者として心構えを意識できる。④1年次前期に続き、教科に関する科目の履修を通じて、社会や自然と科学技術との調和を考慮した幅広い基礎的知識を修得する。
2年次	前期	①教育の理念、教育に関する歴史と思想を学び、教育・学校・子どもに関する基本的知識を修得する。②教育法規の全体像を理解するとともに、法的思考を身につける。③教育課程の意義および編成の方法に関する基礎的知識と技法を身につける。その上で、教材開発とそれを活用した指導を実践することができる。④「人権」を中心に日本国憲法を学習し、憲法の理念を修得する。⑤1年次の教科に関する基礎学習を踏まえて、発展的な教科に関する科目を履修することで、生物学や化学の専門学習に対する基礎を養う。
	後期	①学校経営、教育制度を学び、学校教育のあり方に関する認識を深める。②総合的な学習の時間の指導についての知識とスキルを身につける。③2年次前期に続き、発展的な教科に関する科目を履修することで生物学および化学の専門学習に対する基礎を養う。
3年次	前期	①特別の支援を必要とする生徒への理解を深め、支援の方法について学ぶ。②「理科教育法Ⅰ」では、学習指導案の作成の仕方、観察・実験のさせ方、授業のカリキュラム(指導計画)の作り方、授業を支える「ものづくり」、理科教育と環境教育・情報教育との関連、模擬授業の準備・実際の授業・分析ができる。③教科「理科」に関する発展的な科目を履修し、生物学および化学の専門学習に対する発展的知識を養い、専門領域と周辺科学領域との関連性および相互補完性を理解し、理科教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
	後期	①すべての児童生徒を対象とした教育相談を行っていくために必要不可欠な知識および技能を修得し身につける。②「理科教育法Ⅰ」の学習を基盤として、「理科教育法Ⅱ」では、教科の目標と各領域についてより一層教材研究力を伸長し、より精緻な学習指導案(細案)を作成できる。③生徒の理解を促すためのICTの活用方法を理解する。④卒業課題研究等を通じて、自己の研究専門分野の学習理論、知識を研究に集約し、理科教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
4年次	前期	①教育実習の意義を理解し、適切な学習指導案の作成と学校現場での授業実践を通じて実践的指導力を発揮できる。②教育活動における使命感と責任感の重要性を理解し、教育現場で生じる諸問題に対して社会性を備えた対応をすることができる③教育実習を通じて自らの教員適性について客観的に省察できる。④実習事前の指導では、教職課程担当教員、学級指導担当教諭及び教科指導担当教諭に対して教育実習の自己目標を明確に説明できる。⑤実習事後の指導では、実習を通じて得た自己課題を省察しその課題解決への方途を説明できる。
	集中(後期)	①「教職実践演習」の受講時に、教養審答申または中教審答申等に示される「教職に求められる資質能力」を理解できる。②教員養成段階に求められる「実践的指導力」を身につける。③卒業課題研究などを通じて、自己の研究専門分野の学習理論および知識を研究に集約し、併せて自己の4年間の教職課程、専門課程での学習進捗を振り返り、教科「理科」における自己の資質能力上の学習課題を整理できる。修得した教科「理科」の専門理論や知識を教育実践上で発揮できる。

様式第7号ウ（教諭）

＜食料農学科＞（認定課程：高一種免 理科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	物理学入門		情報基礎A	
			化学入門		健康・スポーツA	
			生物学入門		英語コミュニケーションⅠ	
			基礎遺伝学			
	後期	教育・学校心理学	地学入門		健康・スポーツB	
		特別活動の理論と方法	基礎生物学実験		英語コミュニケーションⅡ	
生徒指導・進路指導		応用昆虫学Ⅱ				
2年次	前期	教育概論	基礎分析化学		憲法	
		教育法規	食品化学			
		教育課程・教育方法論				
	後期	学校経営・制度論	栄養化学			
		総合的な学習の時間の理論と実践	食品生化学			
			植物病理学Ⅰ			
		農学実験Ⅰ				
3年次	前期	特別支援教育	植物病理学Ⅱ			
		理科教育法Ⅰ	植物育種学Ⅱ			
			植物ウイルス学			
			農学実験Ⅱ			
	後期	教育相談				卒業研究
		理科教育法Ⅱ				
教育におけるICT活用法						
4年次	前期	教育実習				卒業研究
						農学演習
						食品健康科学演習
	後期					卒業研究
	集中	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜食料農学科＞(認定課程:高一種免 農業)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①教職の意義及び教員の果たす役割を説明できる。教師の職務内容(研修、服務規律、身分保障等)を理解し、生徒の進路選択に資する学校教育実践について説明できる。②高等教育レベルで最低限求められる情報処理技法、英語力の基礎を修得し身につける。
	後期	①生徒の心身の発達および学習の過程を学び、乳幼児期から青年期に至る発達を、心身障害児も含め多面的に理解する。②特別活動の指導方法を習得し、教員になる上で必要な特別活動の指導目標や指導内容について説明できる。③生徒指導に関係する「自己指導能力」「コミュニケーション能力」「児童生徒理解」「教育相談」「問題行動」「いじめ」「不登校」及び学校における生徒指導体制の理解し、教育実習や教員になったときに生徒指導をする者として心構えを意識できる。④農業教科の基礎理念と実験技能を確実に修得する。
2年次	前期	①教育の理念、教育に関する歴史と思想を学び、教育・学校・子どもに関する基本的知識を修得する。②教育法規の全体像を理解するとともに、法的思考を身につける。③教育課程の意義および編成の方法に関する基礎的知識と技法を身につける。その上で、教材開発とそれを活用した指導を実践することができる。④「人権」を中心に日本国憲法を学習し、憲法の理念を修得する。⑤農業教育の方向性、動向、授業のあり方を把握し、教育活動に展開するための基礎的能力を養う。さらに、農業の授業の基本的な指導の仕方、教材研究の様式について説明することができる。
	後期	①学校経営、教育制度を学び、学校教育のあり方に関する認識を深める。②総合的な学習の時間の指導についての知識とスキルを身につける。③2年次後期より、発展的な教科に関する科目を履修することで、農業の専門学習に対する基礎を養う。
	集中	①職業指導、進路指導、キャリア教育変遷の歴史とそれぞれの意義を説明できる。また、キャリア教育の基本理念や性格、基礎的な理論を説明できる
3年次	前期	①特別の支援を必要とする生徒への理解を深め、支援の方法について学ぶ。②農業の特性や農業の教育的側面について理解を深めるとともに、農業教育の意義や役割を考えることができる。③自らの専門学問領域の理論知識を身につけ、専門学問領域と周辺科学領域との関連性および相互補完性を理解する。
	後期	①すべての児童生徒を対象とした教育相談を行っていくために必要不可欠な知識および技能を修得し身につける。②「農業教育法Ⅰ」の学習を基盤として、「農業教育法Ⅱ」では、教科の目標と各領域について一層に教材研究力を伸長し、より精緻な学習指導案(細案)を作成できる。③生徒の理解を促すためのICTの活用方法を理解する。④卒業課題研究を通じて、自己の専門研究分野の学習理論、知識を研究に集約し、農業教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
4年次	前期	①教育実習の意義を理解し、適切な学習指導案の作成と学校現場での授業実践を通じて実践的指導力を発揮できる。②教育活動における使命感と責任感の重要性を理解し、教育現場で生じる諸問題に対して社会性を備えた対応をすることができる③教育実習を通じて自らの教員適性について客観的に省察できる。④実習事前の指導では、教職課程担当教員、学級指導担当教諭及び教科指導担当教諭に対して教育実習の自己目標を明確に説明できる。⑤実習事後の指導では、実習を通じて得た自己課題を省察しその課題解決への方途を説明できる。
	集中(後期)	①「教職実践演習」の受講時に、教養審査申または中教審査申等に示される「教職に求められる資質能力」を理解できる。②教員養成段階に求められる「実践的指導力」を身につける。③卒業課題研究等を通じて、自己の専門研究分野の学習理論および知識を研究に集約し、併せて自己の4年間の教職課程、専門課程での学習進捗を振り返り、教科農業における自己の資質能力上の学習課題を整理できる。修得した教科農業の専門理論や知識を教育実践上で発揮できる。

様式第7号ウ（教諭）

＜食料農学科＞（認定課程：高一種免 農業）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期	教職入門			情報基礎A		
					健康・スポーツA		
					英語コミュニケーションⅠ		
	後期	教育・学校心理学	食料農学科概論		健康・スポーツB		
		特別活動の理論と方法 生徒指導・進路指導	作物栽培学		英語コミュニケーションⅡ		
2年次	前期	教育概論	食料経済学		憲法		
		教育法規	土壌資源利用論				
		教育課程・教育方法論	農場実習Ⅰ				
			フィールド管理学				
	後期	学校経営・制度論	食用作物学Ⅰ				
		総合的な学習の時間の理論と実践	園芸学Ⅰ				
			園芸学Ⅱ				
			植物育種学Ⅰ				
			植物生理生化学				
			農業経営学				
	集中		職業指導				
	3年次	前期	特別支援教育	食用作物学Ⅱ			
			農業教育法Ⅰ	農学実験Ⅲ			
			植物栄養学・肥料学				
			農学実験Ⅳ				
			食品衛生学				
後期		教育相談	土壌環境微生物学・生化学			卒業研究	
		農業教育法Ⅱ	農学の総合知演習				
		教育におけるICT活用法	食品機能学				
4年次	前期	教育実習			卒業研究		
					農学演習		
					食品健康科学演習		
	後期				卒業研究		
	集中	教職実践演習					

様式第7号ウ

＜生命科学科＞(認定課程:高一種免 理科)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①教職の意義及び教員の果たす役割を説明できる。教師の職務内容(研修、服務規律、身分保障等)を理解し、生徒の進路選択に資する学校教育実践について説明できる。②理科教科の基礎理論を確実に修得する。③高等教育レベルで最低限求められる情報処理技法、英語力の基礎を修得し身につける。
	後期	①幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程を学び、乳幼児期から青年期に至る発達を、心身障害児も含め多面的に理解する。②特別活動の指導方法を習得し、教員になる上で必要な特別活動の指導目標や指導内容について説明できる。③生徒指導に関係する「自己指導能力」「コミュニケーション能力」「児童生徒理解」「教育相談」「問題行動」「いじめ」「不登校」及び学校における生徒指導体制を理解し、教育実習や教員になったときに生徒指導をする者として心構えを意識できる。④理科教科の基礎理論と実験技能を確実に修得する。
2年次	前期	①教育の理念、教育に関する歴史と思想を学び、教育・学校・子どもに関する基本的知識を修得する。②教育法規の全体像を理解するとともに、法的思考を身につける。③教育課程の意義および編成の方法に関する基礎的知識と技法を身につける。その上で、教材開発とそれを活用した指導を実践することができる。④「人権」を中心に日本国憲法を学習し、憲法の理念を修得する。
	後期	①学校経営、教育制度を学び、学校教育のあり方に関する認識を深める。②総合的な学習の時間の指導についての知識とスキルを身につける。③自らの専門領域の理論・知識を身につけ、専門領域と周辺科学領域との関連性及び相互補完性を理解し、理科教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
3年次	前期	①特別の支援を必要とする生徒への理解を深め、支援の方法について学ぶ。②「理科教育法Ⅰ」では、学習指導案の作成の仕方、観察・実験のさせ方、授業のカリキュラム(指導計画)の作り方、授業を支える「ものづくり」、理科教育と環境教育・情報教育との関連、模擬授業の準備・実際の授業・分析ができる。③2年次後期に引き続き、自らの専門領域の理論知識を身につけ、専門領域と周辺科学領域との関連性及び相互補完性を理解し、理科教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
	後期	①生徒の理解を促すためのICTの活用方法を理解する。②「理科教育法Ⅰ」の学習を基盤として、「理科教育法Ⅱ」では、教科の目標と各領域についてより一層教材研究力を伸長し、より精緻な学習指導案(細案)を作成できる。③すべての児童生徒を対象とした教育相談を行っていくために必要不可欠な知識および技能を修得し身につける。④自らの専門学問領域の理論や知識を理科教育理論の実践にいかに応用できるかについて説明できる。また、理科教育における自己専門性の核を見いだす。⑤卒業課題研究等を通じて、自己の専門研究分野の学習理論、知識を研究に集約し、理科教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
4年次	前期	①教育実習の意義を理解し、適切な学習指導案の作成と学校現場での授業実践を通じて実践的指導力を発揮できる。②教育活動における使命感と責任感の重要性を理解し、教育現場で生じる諸問題に対して社会性を備えた対応をすることができる③教育実習を通じて自らの教員適性について客観的に省察できる。④実習事前の指導では、教職課程担当教員、学級指導担当教諭及び教科指導担当教諭に対して教育実習の自己目標を明確に説明できる。⑤実習事後の指導では、実習を通じて得た自己課題を省察しその課題解決への方途を説明できる。
	集中(後期)	①「教職実践演習」の受講時に、教養審答申または中教審答申等に示される「教職に求められる資質能力」を理解できる。②教員養成段階に求められる「実践的指導力」を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜生命科学科＞（認定課程：高一種免 理科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	物理学入門		情報基礎 A	
			化学入門		健康・スポーツ A	
			生物学入門		英語コミュニケーション I	
	後期	教育・学校心理学	地学入門		健康・スポーツ B	
		特別活動の理論と方法	基礎生物学実験		英語コミュニケーション II	
		生徒指導・進路指導	生化学 I			
		細胞生物学 I				
2年次	前期	教育概論	応用昆虫学 I		憲法	
		教育法規	植物生理学 I			
		教育課程・教育方法論	微生物学概論			
			共生生物学			
			生化学 II			
			分子生物機能学実験 I			
	後期	学校経営・制度論	分子生物学 I			
		総合的な学習の時間の理論と実践	遺伝子工学			
			生理学			
			組織形態学			
			微生物生理学			
			植物共生微生物学			
			分子生物機能学実験 II			
	3年次	前期	特別支援教育	分子生物学 II		
理科教育法 I						
後期		教育相談				卒業研究
		理科教育法 II				分子生物機能学演習 I
		教育におけるICT活用法				
4年次	前期	教育実習			卒業研究	
					分子生物機能学演習 II	
	後期				卒業研究	
	集中	教職実践演習				

様式第7号ウ

<地域環境科学科>(認定課程:高一種免 理科)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①教職の意義及び教員の果たす役割を説明できる。教師の職務内容(研修、服務規律、身分保障等)を理解し、生徒の進路選択に資する学校教育実践について説明できる。②高等教育レベルで最低限求められる情報処理技法、英語力の基礎を修得し身につける。③教科に関する専門的事項として、理科に関する基礎的科目を履修し、基礎を理解する。
	後期	①生徒の心身の発達および学習の過程を学び、乳幼児期から青年期に至る発達を、心身障害児も含め多面的に理解する。②特別活動の指導方法を習得し、教員になる上で必要な特別活動の指導目標や指導内容について説明できる。③生徒指導に関係する「自己指導能力」「コミュニケーション能力」「児童生徒理解」「教育相談」「問題行動」「いじめ」「不登校」及び学校における生徒指導体制を理解し、教育実習や教員になったときに生徒指導をする者として心構えを意識できる。④引き続き、教科に関する専門的事項として、理科に関する基礎的科目を履修し、基礎を理解する。
2年次	前期	①教育の理念、教育に関する歴史と思想を学び、教育・学校・子どもに関する基本的知識を修得する。②教育法規の全体像を理解するとともに、法的思考を身につける。③教育課程の意義および編成の方法に関する基礎的知識と技法を身につける。その上で、教材開発とそれを活用した指導を実践することができる。④「人権」を中心に日本国憲法を学習し、憲法の理念を修得する。⑤教科に関する専門的事項として、基礎実習及び専門科目を履修し、今後の専門への心構え・基礎能力を身につける。
	後期	①学校経営、教育制度を学び、学校教育のあり方に関する認識を深める。②総合的な学習の時間の指導についての知識とスキルを身につける。③教科に関する専門的事項として、高度な専門科目を履修し、専門的知識・技能を身につける。
3年次	前期	①特別の支援を必要とする生徒への理解を深め、支援の方法について学ぶ。②「理科教育法Ⅰ」では、学習指導案の作成の仕方、観察・実験のさせ方、授業のカリキュラム(指導計画)の作り方、授業を支える「ものづくり」、理科教育と環境教育・情報教育との関連、模擬授業の準備・実際の授業・分析ができる。③引き続き、教科に関する専門的事項として、高度な専門科目を履修し、専門的知識・技能を身につける。
	後期	①すべての児童生徒を対象とした教育相談を行っていくために必要不可欠な知識および技能を修得し身につける。②「理科教育法Ⅰ」の学習を基盤として、「理科教育法Ⅱ」では、教科の目標と各領域についてより一層教材研究力を伸長し、より精緻な学習指導案(細案)を作成できる。③生徒の理解を促すためのICTの活用方法を理解する。④教職課程に関連性の深い、より高度な専門科目を履修し、専門に関する広い知識を身につける。
4年次	前期	①教育実習の意義を理解し、適切な学習指導案の作成と学校現場での授業実践を通じて実践的指導力を発揮できる。②教育活動における使命感と責任感の重要性を理解し、教育現場で生じる諸問題に対して社会性を備えた対応をすることができる③教育実習を通じて自らの教員適性について客観的に省察できる。④実習事前の指導では、教職課程担当教員、学級指導担当教諭及び教科指導担当教諭に対して教育実習の自己目標を明確に説明できる。⑤実習事後の指導では、実習を通じて得た自己課題を省察しその課題解決への方途を説明できる。
	集中(後期)	①「教職実践演習」の受講時に、教養審答申または中教審答申等に示される「教職に求められる資質能力」を理解できる。②教員養成段階に求められる「実践的指導力」を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜地域環境科学科＞（認定課程：高一種免 理科）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	物理学入門		情報基礎A	
			化学入門		健康・スポーツA	
			生物学入門		英語コミュニケーションⅠ	
	後期	教育・学校心理学	地学入門		健康・スポーツB	
		特別活動の理論と方法	基礎生物学実験		英語コミュニケーションⅡ	
		生徒指導・進路指導	生化学Ⅰ			
2年次	前期	教育概論	樹木学		憲法	
		教育法規	樹木学実習			
		教育課程・教育方法論				
	後期	学校経営・制度論	熱工学			
		総合的な学習の時間の理論と実践	土壌物理学			
			野生動物管理学			
			森林・雪氷水文学			
		森林保全生態学				
		地域生態系保全論				
3年次	前期	特別支援教育	生鮮食品保存科学			
		理科教育法Ⅰ	ものづくり実習			
			野生動物管理学実習			
			森林化学演習			
			基礎分析化学			
			応用昆虫学Ⅰ			
	後期	教育相談	環境と樹木の生理			卒業研究
		理科教育法Ⅱ	植物病理学Ⅰ			
		教育におけるICT活用法				
4年次	前期	教育実習	微生物学概論			卒業研究
	後期					卒業研究
	集中	教職実践演習				

様式第7号ウ

<地域環境科学科>(認定課程:高一種免 農業)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①教職の意義及び教員の果たす役割を説明できる。教師の職務内容(研修、服務規律、身分保障等)を理解し、生徒の進路選択に資する学校教育実践について説明できる。②高等教育レベルで最低限求められる情報処理技法、英語力の基礎を修得し身につける。
	後期	①生徒の心身の発達および学習の過程を学び、乳幼児期から青年期に至る発達を、心身障害児も含め多面的に理解する。②特別活動の指導方法を習得し、教員になる上で必要な特別活動の指導目標や指導内容について説明できる。③生徒指導に関係する「自己指導能力」「コミュニケーション能力」「児童生徒理解」「教育相談」「問題行動」「いじめ」「不登校」及び学校における生徒指導体制の理解し、教育実習や教員になったときに生徒指導をする者として心構えを意識できる。④教科に関する専門的事項として、基礎実習及び専門科目を履修し、今後の専門への心構え・基礎能力を身につける。
2年次	前期	①教育の理念、教育に関する歴史と思想を学び、教育・学校・子どもに関する基本的知識を修得する。②教育法規の全体像を理解するとともに、法的思考を身につける。③教育課程の意義および編成の方法に関する基礎的知識と技法を身につける。その上で、教材開発とそれを活用した指導を実践することができる。④「人権」を中心に日本国憲法を学習し、憲法の理念を修得する。⑤引き続き、教科に関する専門的事項として、基礎実習及び専門科目を履修し、今後の専門への心構え・基礎能力を身につける。
	後期	①学校経営、教育制度を学び、学校教育のあり方に関する認識を深める。②総合的な学習の時間の指導についての知識とスキルを身につける。③教科に関する専門的事項として、高度な専門科目を履修し、専門的知識・技能を身につける。
	集中	①職業指導、進路指導、キャリア教育変遷の歴史とそれぞれの意義を説明できる。また、キャリア教育の基本理念や性格、基礎的な理論を説明できる
3年次	前期	①特別の支援を必要とする生徒への理解を深め、支援の方法について学ぶ。②農業の特性や農業の教育的側面について理解を深めるとともに、農業教育の意義や役割をえることができる。③引き続き、教科に関する専門的事項として、高度な専門科目を履修し、専門的知識・技能を身につける。
	後期	①すべての児童生徒を対象とした教育相談を行っていくために必要不可欠な知識および技能を修得し身につける。②「農業教育法Ⅰ」の学習を基盤として、「農業教育法Ⅱ」では、教科の目標と各領域について一層に教材研究力を伸長し、より精緻な学習指導案(細案)を作成できる。③生徒の理解を促すためのICTの活用方法を理解する。④教職課程に関連性の深い、より高度な専門科目を履修し、専門に関する広い知識を身につける。
4年次	前期	①教育実習の意義を理解し、適切な学習指導案の作成と学校現場での授業実践を通じて実践的指導力を発揮できる。②教育活動における使命感と責任感の重要性を理解し、教育現場で生じる諸問題に対して社会性を備えた対応をすることができる③教育実習を通じて自らの教員適性について客観的に省察できる。④実習事前の指導では、教職課程担当教員、学級指導担当教諭及び教科指導担当教諭に対して教育実習の自己目標を明確に説明できる。⑤実習事後の指導では、実習を通じて得た自己課題を省察しその課題解決への方途を説明できる。
	集中(後期)	①「教職実践演習」の受講時に、教養審答申または中教審答申等に示される「教職に求められる資質能力」を理解できる。②教員養成段階に求められる「実践的指導力」を身につける。

様式第7号ウ(教諭)

<地域環境科学科>(認定課程:高一種免 農業)

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期	教職入門			情報基礎A		
					健康・スポーツA		
					英語コミュニケーションⅠ		
	後期	教育・学校心理学	応用力学		健康・スポーツB		
		特別活動の理論と方法 生徒指導・進路指導	森林科学基礎演習		英語コミュニケーションⅡ		
2年次	前期	教育概論	構造力学		憲法		
		教育法規	測量学				
		教育課程・教育方法論	測量学基礎実習				
			栽培施設学				
			水理学				
			林業・木材産業論				
			森林測量学Ⅰ				
			森林測量学実習Ⅰ				
	後期	学校経営・制度論	土質力学				
		総合的な学習の時間の理論と実践	農業循環工学				
			ポストハーベスト工学				
			森林測量学Ⅱ				
			森林測量学実習Ⅱ				
			森林利用学				
	集中		職業指導				
	3年次	前期	特別支援教育	農産食品プロセス工学			
			農業教育法Ⅰ	地理情報処理学			
			農地工学				
			砂防学				
			森林政策学				
			森林造成学				
			森林造成学実習				
後期		教育相談	スマート農業概論			卒業研究	
		農業教育法Ⅱ					
		教育におけるICT活用法					
4年次	前期	教育実習			卒業研究		
	後期				卒業研究		
	集中	教職実践演習					

様式第7号ウ

＜動物科学・水産科学科＞（認定課程：高一種免 理科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①教職の意義及び教員の果たす役割を説明できる。教師の職務内容(研修、服務規律、身分保障等)を理解し、生徒の進路選択に資する学校教育実践について説明できる。②高等教育レベルで最低限求められる情報処理技法、英語力の基礎を修得し身につける。
	後期	①生徒の心身の発達および学習の過程を学び、乳幼児期から青年期に至る発達を、心身障害児も含め多面的に理解する。②特別活動の指導方法を習得し、教員になる上で必要な特別活動の指導目標や指導内容について説明できる。③生徒指導に関係する「自己指導能力」「コミュニケーション能力」「児童生徒理解」「教育相談」「問題行動」「いじめ」「不登校」及び学校における生徒指導体制を理解し、教育実習や教員になったときに生徒指導をする者として心構えを意識できる。
2年次	前期	①教育の理念、教育に関する歴史と思想を学び、教育・学校・子どもに関する基本的知識を修得する。②教育法規の全体像を理解するとともに、法的思考を身につける。③教育課程の意義および編成の方法に関する基礎的知識と技法を身につける。その上で、教材開発とそれを活用した指導を実践することができる。④「人権」を中心に日本国憲法を学習し、憲法の理念を修得する。
	後期	①学校経営、教育制度を学び、学校教育のあり方に関する認識を深める。②総合的な学習の時間の指導についての知識とスキルを身につける。③自らの専門領域の理論・知識を身につけ、専門領域と周辺科学領域との連関性及び相互補完性を理解し、理科教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
3年次	前期	①特別の支援を必要とする生徒への理解を深め、支援の方法について学ぶ。②「理科教育法Ⅰ」では、学習指導案の作成の仕方、観察・実験のさせ方、授業のカリキュラム(指導計画)の作り方、授業を支える「ものづくり」、理科教育と環境教育・情報教育との関連、模擬授業の準備・実際の授業・分析ができる。③2年次後期に引き続き、自らの専門領域の理論知識を身につけ、専門領域と周辺科学領域との連関性及び相互補完性を理解し、理科教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
	後期	①すべての児童生徒を対象とした教育相談を行っていくために必要不可欠な知識および技能を修得し身につける。②「理科教育法Ⅰ」の学習を基盤として、「理科教育法Ⅱ」では、教科の目標と各領域についてより一層教材研究力を伸長し、より精緻な学習指導案(細案)を作成できる。③生徒の理解を促すためのICTの活用方法を理解する。④自らの専門学問領域の理論や知識を理科教育理論の実践にいかに応用できるかについて説明できる。また、理科教育における自己専門性の核を見いだす。⑤卒業課題研究等を通じて、自己の専門研究分野の学習理論、知識を研究に集約し、理科教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
4年次	前期	①教育実習の意義を理解し、適切な学習指導案の作成と学校現場での授業実践を通じて実践的指導力を発揮できる。②教育活動における使命感と責任感の重要性を理解し、教育現場で生じる諸問題に対して社会性を備えた対応をすることができる③教育実習を通じて自らの教員適性について客観的に省察できる。④実習事前の指導では、教職課程担当教員、学級指導担当教諭及び教科指導担当教諭に対して教育実習の自己目標を明確に説明できる。⑤実習事後の指導では、実習を通じて得た自己課題を省察しその課題解決への方途を説明できる。⑥卒業課題研究等を通じて、自己の研究専門分野の学習理論および知識を研究に集約し、併せて自己の4年間の教職課程、専門課程での学習進度を振り返り、教科理科における自己の資質能力上の学習課題を整理できる。修得した教科理科の専門理論や知識を教育実践上で発揮できる。
	集中(後期)	①「教職実践演習」の受講時に、教養審答申または中教審答申等に示される「教職に求められる資質能力」を理解できる。②教員養成段階に求められる「実践的指導力」を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜動物科学・水産科学科＞（認定課程：高一種免 理科）

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	物理学入門		情報基礎 A	
			化学入門		健康・スポーツ A	
			生物学入門		英語コミュニケーション I	
			実験動物学概論			
			基礎遺伝学			
	後期	教育・学校心理学	地学入門		健康・スポーツ B	
		特別活動の理論と方法	基礎生物学実験		英語コミュニケーション II	
		生徒指導・進路指導	遺伝子機能学			
		基礎化学実験				
2年次	前期	教育概論	動物生理学 I		憲法	
		教育法規	発生生物学			
		教育課程・教育方法論	食品化学			
			動物遺伝育種学			
			水族生理学			
			水産生物学			
			水族遺伝学 I			
			水産科学実験 I			
	後期	学校経営・制度論	動物生理学 II			
		総合的な学習の時間の理論と実践	動物生殖学			
			人と動物の関係学			
			水産科学実験 II			
3年次	前期	特別支援教育				
		理科教育法 I				
	後期	教育相談				卒業研究
		理科教育法 II				
		教育における ICT 活用法				
4年次	前期	教育実習				卒業研究
	後期					卒業研究
	集中	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜動物科学・水産科学科＞（認定課程：高一種免 農業）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	①教職の意義及び教員の果たす役割を説明できる。教師の職務内容(研修、服務規律、身分保障等)を理解し、生徒の進路選択に資する学校教育実践について説明できる。②高等教育レベルで最低限求められる情報処理技法、英語力の基礎を修得し身につける。
	後期	①生徒の心身の発達および学習の過程を学び、乳幼児期から青年期に至る発達を、心身障害児も含め多面的に理解する。②特別活動の指導方法を習得し、教員になる上で必要な特別活動の指導目標や指導内容について説明できる。③生徒指導に関係する「自己指導能力」「コミュニケーション能力」「児童生徒理解」「教育相談」「問題行動」「いじめ」「不登校」及び学校における生徒指導体制の理解し、教育実習や教員になったときに生徒指導をする者として心構えを意識できる。④農業教科の基礎理論を確実に修得する。
2年次	前期	①教育の理念、教育に関する歴史と思想を学び、教育・学校・子どもに関する基本的知識を修得する。②教育法規の全体像を理解するとともに、法的思考を身につける。③教育課程の意義および編成の方法に関する基礎的知識と技法を身につける。その上で、教材開発とそれを活用した指導を実践することができる。④「人権」を中心に日本国憲法を学習し、憲法の理念を修得する。⑤農業教科の基礎理論と実験技能を確実に修得する。
	後期	①学校経営、教育制度を学び、学校教育のあり方に関する認識を深める。②総合的な学習の時間の指導についての知識とスキルを身につける。③自らの専門学問領域の理論知識を身につけ、専門学問領域と周辺科学領域との連関性及び相互補完性を理解し、農業教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
	集中	①職業指導、進路指導、キャリア教育変遷の歴史とそれぞれの意義を説明できる。また、キャリア教育の基本理念や性格、基礎的な理論を説明できる
3年次	前期	①特別の支援を必要とする生徒への理解を深め、支援の方法について学ぶ。②農業の特性や農業の教育的側面について理解を深めるとともに、農業教育の意義や役割を考えることができる。③2年次後期に引き続き、自らの専門学問領域の理論知識を身につけ、専門学問領域と周辺科学領域との連関性及び相互補完性を理解し、農業教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
	後期	①すべての児童生徒を対象とした教育相談を行っていくために必要不可欠な知識および技能を修得し身につける。②「農業教育法Ⅰ」の学習を基盤として、「農業教育法Ⅱ」では、教科の目標と各領域について一層に教材研究力を伸長し、より精緻な学習指導案(細案)を作成できる。③生徒の理解を促すためのICTの活用方法を理解する。④自らの専門学問領域の理論や知識を理科教育理論の実践にいかに応用できるかについて説明できる。また、農業教育における自己専門性の核を見いだす。⑤卒業課題研究等を通じて、自己の専門研究分野の学習理論、知識を研究に集約し、農業教育理論およびその実践への応用を意識化できる。
4年次	前期	①教育実習の意義を理解し、適切な学習指導案の作成と学校現場での授業実践を通じて実践的指導力を発揮できる。②教育活動における使命感と責任感の重要性を理解し、教育現場で生じる諸問題に対して社会性を備えた対応をすることができる③教育実習を通じて自らの教員適性について客観的に省察できる。④実習事前の指導では、教職課程担当教員、学級指導担当教諭及び教科指導担当教諭に対して教育実習の自己目標を明確に説明できる。⑤実習事後の指導では、実習を通じて得た自己課題を省察しその課題解決への方途を説明できる。
	集中(後期)	①「教職実践演習」の受講時に、教養審答申または中教審答申等に示される「教職に求められる資質能力」を理解できる。②教員養成段階に求められる「実践的指導力」を身につける。③自己の専門研究領域の高度な学習総括に意欲的に取り組むことができる。④卒業課題研究等を通じて、自己の専門研究分野の学習理論および知識を研究に集約し、併せて自己の4年間の教職課程、専門課程での学習進捗を振り返り、教科農業における自己の資質能力上の学習課題を整理できる。修得した教科農業の専門理論や知識を教育実践上で発揮できる。

様式第7号ウ（教諭）

＜動物科学・水産科学科＞（認定課程：高一種免 農業）

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職入門	動物生産学		情報基礎A	
					健康・スポーツA	
					英語コミュニケーションI	
	後期	教育・学校心理学	動物科学・水産科学概論		健康・スポーツB	
		特別活動の理論と方法			英語コミュニケーションII	
生徒指導・進路指導						
2年次	前期	教育概論	動物栄養学		憲法	
		教育法規				
		教育課程・教育方法論				
	後期	学校経営・制度論	飼料学			
		総合的な学習の時間の理論と実践	動物管理学			
			動物科学実験I			
			農業経営学			
集中		職業指導				
3年次	前期	特別支援教育	家畜繁殖技術学			
		農業教育法I	家畜飼養学I			
			草地学			
			食肉科学			
			動物科学実験II			
			牧場実習			
			家畜飼養学II			
			動物行動学			
	後期	教育相談				卒業研究
		農業教育法II				
教育におけるICT活用法						
4年次	前期	教育実習			卒業研究	
	後期				卒業研究	
	集中	教職実践演習				